

毎日新聞

平成21年1月8日(木)
茨城版



補修される前の「石神組御用留」＝茨城大提供

水戸藩の古文書 「石神組御用留」

農村での役人の仕事ぶりが実に

水戸藩役人が書き留めた200年前の行政文書「石神組御用留」を、所蔵する茨城大と東海村教育委員会などが解説し、解説を付けて2月に発刊する。当

時、農村を所管する役人の仕事ぶりを知ろうと、えで貴重なもので、読作業は2年がかりで行われた。茨城大図書館による「石神組御用留」の中期以降「郡奉行所」と呼ばれる出先機関を農村に置き、農政にあたる。文書は、現在の東北地域の管轄として東海村の石神地区に成功すると、村内の歴史から、同村垣石川駅

時に住民管理が始まっていたことが分かる」と話している。

2年がかりで解説

来月14日、刊行記念シンポ

設けた郡奉行所の記録で、1809(文化6)年の1年分が残されていた。史愛好家ら市民グループと共同で研究会を発足させ、解説を進めた。研究會代表の磯田道史・茨城大准教授(日本文学)は「当時の行政は、福祉行政と同

【八田浩輔】